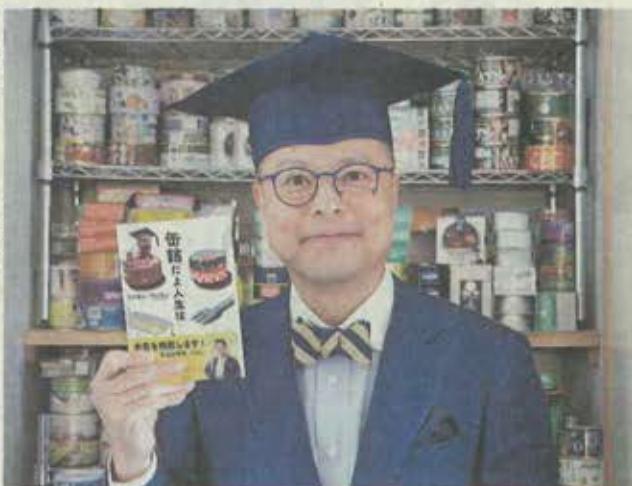


缶詰の魅力を発信して20年

ひと

くろ 黒 川 はや 勇 と 人 さん (57)

(事務所提供)



し訳ないです」

「全国の高校がオリジナル缶詰作りを競う「ローカルフィッシュ缶グランプリ」の審査員。生徒たちに厳しくも温かい目を注ぎます。

国内はもちろん、世界11カ国を訪れ1500種類以上の缶詰を食べきました。都内の事務所兼自宅の戸棚には缶詰がぎっしり。その数4200に上ります。真ん中にあるのはイギリスのミートパイ風のカバ焼き缶で竜田揚げを作りました。成人して証券会社、いますが、新商品が次々に出で追いつかない。缶詰には申

日本缶詰びん詰レトルト食

けを使つたものも出ました。これまで処分していたので、SDGs(持続可能な開発目標)そのものです」

突き詰めると缶詰だった」と、2004年にブログで発信を始めます。テレビ・ラジオ出演などメディアで活躍し、商品開発も手がけます。「缶詰ってすごい。保存料が入っていない。冷蔵庫に入れなくてもいい。それでも3年は持つんですね。サバのみそ煮はカルシウムが閉じこもっている。知れば知るほどびっくりです」

「魚の尾っぽに近い部分だけを使つたものも出ました。これまで処分していたので、SDGs(持続可能な開発目標)そのものです」

「ローカルフィッシュ缶グランプリ」の審査員。生徒たちに厳しくも温かい目を注ぎます。

この機に初めてのエッセー『缶詰だよ人生は』(本の泉社)を出版しました。

文 渡辺 俊江